

複雑な家庭環境の中でも不登校を乗り越える

10月中旬、母親が尋ねて来た。中学1年生の女子生徒の不登校の相談だった。2学期になった9月から突然学校に行かなくなったとのこと。理由を聞いても、「分からない」の一言で黙ってしまう。朝、起きてこないのに、部屋に行くと目は覚めているが、ベッドから出ようとしない。無理やり起こそうとすると、黙ったまま激しく抵抗する、と言う。

家族構成を聞けば、不登校になる彼女の気持ちが見えてきた。5女であった40歳の母親は、3年前彼女が小学4年の時、離婚した。翌年の冬、当時小学5年の彼女と小学3年の妹、年長の弟を連れて、当時3年前に離婚歴のある男性と同居した。翌年、その養父との間に女の子（彼女の父親違いの妹）が生まれた。その養父には、先妻との間に同居当時、年中と年少の男の子2人の連れ子があり、その男の子たちも一緒に同居した。その先妻には17歳で産んだ同居当時小学4年の女の子がいたが（先妻はシングルマザー）、その子が3歳の時ある男性と結婚し、その女の子と養子縁組をした。ところが、その女の子がその男の母親（女の子の義祖母）から虐待を受け、離婚。その女の子は里親に預けられた。母親が再婚した養父の連れ子たちは、その養父、連れ子たちの実父からの虐待を受け児相が入り、昨年10月に孤児院に預けられた。彼女は目の前で、その虐待を見せつけられていたのである。彼女の養父は、1歳の時両親が離婚。1年後、養父の母親（彼女の義祖母）が一人の連れ子（彼女の養父）共にある男性と再婚したが、彼女の養父は後に生まれた彼の実弟と共に、その男性（彼女の義祖父）のDVに悩まされた、と言う。虐待を受けた人は我が子も虐待する。負の連鎖である。殺伐とした家庭環境で、彼女が巻き込まれた一族には心温かい心の交流なんて遠い世界の話であった。

2日後、面談した彼女の心理テストを採った。父性PC（頑固親父性）0（100点中、以下同じ）、母性NP（お節介おばさん性）も0、知性A（コンピューター人間性）10、感性FC（やんちゃ性）4、順応性AC（いい子ぶりっこ性）95だった。典型的なひきこもり型の不登校だった。高いACと低いFCから、他者優先的で、非常に遠慮深く、かなり周り目が気になっており、妥協的・順応的である。加えて、CPが極端に低いことから、自己主張もできず、無口であり、批判や命令もできず、「こうすべき」との行動も取れない状態である。これが彼女の不登校の心理的原因と分析した。

ただ、こうした彼女の心理状態、アイデンティティの不安定さは、これまでの彼女の成育歴の中で両親の離婚・再婚の過程を通じて、当然に安定した家庭環境がなく、加えて養父方の他のきょうだいの両親の対応で、長い間本人のみならず、実のきょうだいを含めて家庭での存在が希薄になっていたことからきたものと判断される、と付け加えた。この私たちの分析は、勿論のこと、後に彼女の当フォーラムでの学習を出席認定して頂いた当該中学校にも、彼女と母親の同意の元、お伝えした。

ちなみに、当時の母親の心理テストは、父性PC77、母性NP45、知性A60、感性FC50、順応性AC92の、若きウェイトルの悩みタイプだった。

当該中学校に復学したいと言う彼女の想いを実現するため、私たちは週2日の学習支援・カウンセリングと、当年冬と翌年春に行われる交流合宿の参加を提案し、対応に入った。

対応1 か月後の心理テストでは、彼女は弱激怒タイプになっていた。即ち、高いACから、妥協的で協調的なため、気が利きすぎる。反面、取り越し苦労をする。同じく高くなったCPからルールに厳しく、命令口調で話してしまう。また、Aの低さから直観的で、冷静な判断、科学的な態度に欠ける。ストレスが溜まると、衝動的・ヒステリー・短気になる。そのような心理状態になった。

対応4 か月、彼女の心理テストは、父性PC30、母性NP50、知性A60、感性FC40、順応性AC60に変化した。周りの目を気にする部分が減り、自分の感情を素直に出し、同世代の行動、即ち毎日当該中学校に登校するという意識が芽生えてきた。

上記の彼女の成育歴のため、彼女は児相をはじめいくつかの公的機関の介入もあったため、この間の詳細な彼女との対応の記述は、彼女の特定につながるため、割愛させて頂く。上記の彼女の成育歴だけでも、十分彼女の特定につながってしまうが、趣旨に則し事実と変えた部分は当事者でなければ分からないと判断し、描いた。

この間、私たちは彼女の気持ちに寄り添い、彼女をひとりの人間として対応する姿勢が彼女の成長を促した、と思う。具体的には、ロールレタリングを通じて彼女の実の父親と向かい合い、自身のアイデンティティを確立して自己の安定を図った。結果、彼女は4月の新学期を機に、当該中学校に再登校した。